



鋼橋技術研究会

鋼橋の技術史研究部会

平成9年度活動報告書

平成11年11月

§ 1. まえがき

当部会は過去の歴史を主題目にしており、他の部会とは趣を異にしています。橋梁技術の発達史を研究することが当初からの目的ですが、いきなり発達史といっても足がすくむ若い部会員も多いことゆえ、次の3つを目標に活動しています。

1. 橋の『古典』と向き合う

名橋を現地に訪ね、じっくりと向き合い、文献調査と合わせて、その橋の建設史、構造からディテールまで明らかにし、その橋の見所・魅力をつき止める作業を行うことにより、橋を見る目を養います。

2. 橋梁技術の発達史研究

橋の発達を、計画・設計・製作・架設などの各段階について勉強します。発達史における名橋の位置付けが的確にできるようになりたいものです。

3. 名橋の保存活動への寄与

明治以降の近代土木の遺産も「近代化遺産」という新しいジャンルの文化財として認識され、国の重要文化財に指定されるものも出てきました。また、登録文化財の制度も導入されています。

文化財としての評価には、単に技術的な面だけでなく、意匠や系譜といったことも重要になりますが、橋梁技術者集団である鋼橋技術研究会として、少なくとも技術評価と意匠評価は的確にできるようにしたいし、保存活用についても提言ができるようにしたいと努力しています。

今回は前回に続いて、上記1の橋の古典と向き合う活動のうち、平成9年度に見学した東京都内の橋の報告です。報告書作成の段階で改めて勉強し直した所も多く、掲載橋梁に関しては2年度にまたがる付き合いとなりました。

最後に、資料提供・ご教示をいただいた各位・各機関に感謝の意を表します：東京都中央区、日本大学伊東孝先生、東京都立大学中村一史先生、東日本旅客鉄道東京土木技術センター贄田秀世氏。

取りまとめ・執筆にあたった部会員各位に感謝します。とくに今回は鉄道橋が多く、佐々木秀弥氏にはかなりのご負担を願い、また、全体の取りまとめ、報告書レイアウト・仕上げには幹事長掘井滋則氏の多大な労があったことを記しておきたいと思います。

1999年（平成11年）11月

鋼橋の技術史研究部会
部会長 小西 純一